

柚子湯してブイの如くに浮く身なり
 川風を加へて京の空つ風
 枯蓮の重なり合ひて重き色
 ぶつ切りの鱈のあら煮や日本海
 柚子たわわ棘まで太く育ちをり
 二の腕のやうな蓮根年用意
 北山の杉も仏もしぐれけり
 初日差す郵便受けへ真つ直ぐに
 遠筑波水濁らせて蓮根掘る
 御火焚へゆく鈴の音について行く
 田仕舞のけむり田を這ふ重さかな
 ポケットに人工知能大枯野
 古里に大字小字冬ぬくし
 崖下に碎ける浪や寒椿
 折紙の裏のまつ白雪が降る

小	大	伊	先	波	梶	後	中	赤	千	江	安	根	市	福
坪	江	藤	崎	羅	村	藤	島	尾	綿	森	田	本	川	井
秀	貴	美	ク	栄	美	邦	暉	昌	史	好	青	三	十	隆
樹	久	津	ニ	子	佐	代	子	子		江	葉	夫	二	子

鮮しき杉玉松は色変へず

研ぎすます寒さ朝日の昇りけり

川二つぶつかるところ冬の薔薇

迸る山の水なり芹洗ふ

光あつめて紫陽花の枯るるなり

高稲架や裾より暮れて八ヶ岳

初茜高鈴山のかがやけり

谷川のかろやかな音冬木の芽

海に沿ふホテルの灯りクリスマス

遠嶺の手に届くほど淑氣満つ

寒椿石より硬く落ちてゐし

湯畑に湯気白々と寒夜なり

湖暗し雪片つぎつぎと吸ひて

学舎の時計正しく日の短か

冬雲の動かぬ重さ関ヶ原

坂本 京子

岡崎 桂子

吉田 叔子

堀江 昭子

小坪 秀樹

橋本 公子

武藤 婦美子

大内 美津子

諸富 清子

富田 はるみ

今瀬 英一朗

野明 昌子

小松 道子

佐藤 正子

後藤 邦代